

SSKU

春
2019年度

お元気ですか?
イリアンソンス
です。



PAGE 02

理事長の散歩道

PAGE 03

特集『施設自慢』～ここが好き～



PAGE 06

活動報告

PAGE 07

職員の一言一語



『仕事で大事にしていること』

PAGE 08

おしらせ

理事長の散歩道

社会福祉法人 イリアンソス 理事長 磯部 光孝



『東日本大震災から8年が過ぎて』

2月28日、港区にあるニッショーホール（日本消防会館）で、きょうされん（旧称「共同作業所全国連絡会」）が製作した映画「星に語りて～Starry Sky～」の試写会に参加させていただきました。この映画は東日本大震災で被害にあった障害のある人や障害者施設のスタッフたちの避難の姿や支援活動をテーマにした映画です。震災を忘れない！この映画で改めて被災者に向き合っていかなければと思いました。

そして、きょうされん福島支部のホームページに掲載されている文章を紹介します。

内閣総理大臣 安倍晋三さま

あの地震・津波・原発事故から八年を迎えました。

今年も、福島は春を迎え、桜が見事に咲き誇ると思います。

帰りたくとも帰れない町も浪江町、飯館村、富岡町、葛尾村、南相馬市の一部そして双葉町、大熊町の7市町村となりました。

来年のオリンピックまでに大熊町も一部は帰れるようになると聞きます。福島第一原発をはさんで分断されてしまったJR常磐線もつながると聞きます。それぞれの市町村の避難者が住んでいた県内各地の仮設住宅の解体も始まりました。県内には復興住宅が建ってきています。

うれしいことであるはずなのに、待ちに待ったことであるはずなのに心から喜べないのは、私たちだけなのでしょうか。

あの原発から50キロ離れた郡山市には、避難指示はでませんでした。しかし、たくさんの若い家族が放射能から子どもを守るために自主避難しました。

八年たった今でも、1000人を越える人たちが全国各地に自主避難しているといえます。郡山で働く父親を残し、避難する子どもたちと母親。家族がバラバラに暮らしています。ここ郡山でも、避難しない子どもたちが少しでも被爆しないようにと除染作業がおこなわれました。八年たった今、除染し、それぞれの家庭に埋めて保管していた放射性廃棄物を双葉町、大熊町の間貯蔵施設に運び込む作業がはじまりました。

各家庭からでた放射性廃棄物は、市内の公園で詰め替え作業がされるのです。春の陽ざしの中、フェンスに囲まれた外側の遊具で、子どもたちが遊んでいるのです。解体の進む仮設のなかには、これから先をどう生きてらいいのか決められない人たちが、取り残されていきます。

あの事故がなかったら・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

あなたがおっしゃる「福島に寄り添って」とはどのようなことなのでしょう。

原発の再稼働を地元の同意という責任で推し進め原発を損得の理屈で海外に売り出そうとする。県民投票で反対の意思が明確になった次の日も土砂を沖縄の海に投入し続けたことが福島と重なります。

それが「寄り添い、耳を傾け、誠意をもって説明する」ことなのでしょう。

あれから、日本の各地で地震が起き、異常気象が災害を引き起こしています。

前に進もうとしながらも悩み、苦しみ、決められない人たちを、取り残される人たちを決して見捨てないでください。前に進めない人たちを、国をあげてのオリンピックで消し去らないでください。

私たちは、今も3.11の中で生きています。 2

特集



施設の大好きなごころ

4月、新たな生活が始まった方や新しい仕事に挑戦している方など、それぞれのスタートの形があることかと思えます。
春号では、施設の好きな所・自慢できる所を紹介してもらいます。明るく楽しく新年度を始めましょう！

このみ

このみの自慢は、広い庭です。
この庭では子どもたちが

様々な遊びをおこなっています。例えば鬼ごっこをして遊んだり、庭の端のほうにある土を使って泥だんごを作ったりしています。

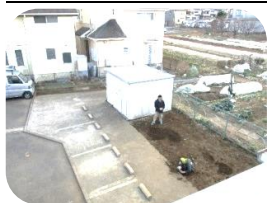
そして、夏になるとプールです。このプール活動も広い庭がなければおこなえません。

また他の事業所の職員の方がこのみの庭をみるととても驚かれ、そして羨ましいと言ってもらえます。

庭の土は、隣の畑と同じ土なので泥だんごに適して

いてある程度の水分だと固まることができ、サラサラの土もあるので最高の泥だんごが作ることが出来ます。子どもたちはその泥だんご作りを夢中でおこなうことがあります。

この広い庭で以前も取り上げましたが、遊びを通して子どもたちの関係性などを築くことが出来ていると思います。そして、たくさん遊べることで子どもたちが健康で元気に過ごしていただけるのだと思います。



なかまの家

どんどん会
(自治会)で、
利用者さんとスタッフ
のみんなと

話し合いました。

- ① 資源回収の仕事！
- ② 手芸ができる！
- ③ 調理活動が大好き！
- ④ 和気あいあい！
- ⑤ 音楽で盛り上がる！



資源回収の仕事は、牛乳パックや古紙、アルミ缶などを回収して業者に卸しに行きます。皆さんのお給料に直結するので、金額発表はドキドキの時間です。

手芸は、糸の色を自分で決め、1針1針縫います。作品展や販売会で披露します。売れ



たり、褒められたりすると、自信につながります。

そして調理活動！月に1度、自分たちでメニューを決めて買い物などの担当を決めます。昨年、作ったものは、あんかけチャーハン、カレー、焼きそば、お好み

焼などです。自分たちで作って食べる味は格別です。なかまの家は平屋なので、15名の利用者さんとスタッフが和気あいあいと活動しています。

限られたスペースを上手に活用し、助け合いながら笑いが沢山あるなかまの家が、利用者さんもスタッフもとても大好きです。



のぞみの家

のぞみの家の春は、近隣にある白山公園の桜と共に訪れます。窓際からは公園内の桜並木を一望できる為、いつも窓際で仕事をしているHさんは、嬉しそうに開花情報をスタッフに教えてくれます。



桜の上には、富士山が見えます。桜と富士山のコラボレーションは、まるで絵葉書を切り取ったような風景です。来訪者に案内する時は必ず自慢してしまう大好きな風景です。

活動の場面を切り取って見てみると、外出活動が多いです。

桜が咲けば、毎日のように散歩へ出掛けます。夏はプール三昧です。コンサートや喫茶店にも行きます。

当たり前だけど、意外と難しいことを、当たり前だよね！！と楽しくやっていると明るさとハートフルな雰囲気自慢です。きっと利用者の方々からの元気パワ



ーを沢山もらってスタッフの原動力になっているからだと思います。
 今年度も、桜に負けない位の満開の笑顔がのぞみの家に咲き乱れますように！！
 のぞみの家好きなどころアンケートです。
 ①美味しい給食
 ②富士山
 ③桜



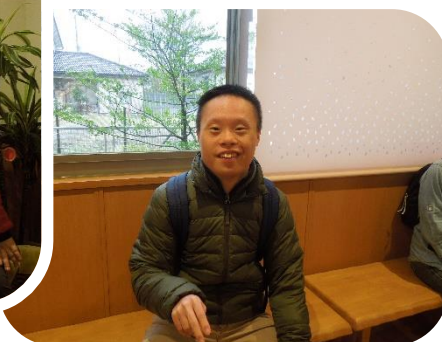
かなえ

活動センターかなえの自慢・・・なんといいっても新しいこと、「新築」が一番の自慢です！！かなえは長らく旧いずみ幼稚園の園舎の2階を使用していました。古い建物で夏は暑く冬は寒い・・・エレベーターがなく車いす利用の方も階段を利用しなくてはならない・・・など課題

がたくさんでした。2015年12月に完成し、活動を始めました。部屋の数も増え、利用者の皆さんのそれぞれ落ち着いて過ごせるように班編成をすることができ、みなさんイキイキと過ごされています。

なによりエアコンが良く効いて涼しく、床暖房もあり暖かい。快適な環境でみんなの仕事の進み具合も上がります。

建物が新しくなって定員が増えたので、高校を卒業したばかりの若い方たちが増えています。これまでいた方たちのベテランパワーと、若いフレッシュなパワーで力を合わせ、広報配り



や空き地整備などの力仕事から、手芸などの細かい作業まで、日々頑張っています。

事業報告会

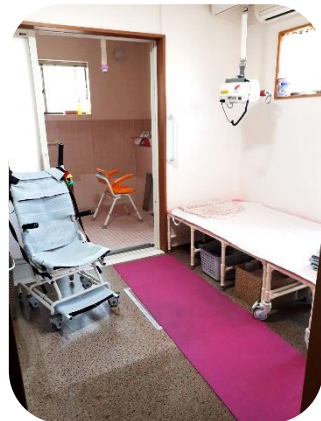
2018年12月15日(土)

イオンモール東久留米にて、事業報告会をおこないました。

NPO法人「地域ケアさぼりと研究所」の白鳥芳子先生をお招きして、摂食についての学習会と法人職員によるレポート発表をおこないました。

改めて、食べることの大切さと同時に難しさを学ぶことができました。今後も継続して学びを深めていき、実践に活かしていきたいと思えます。

お忙しい中、ご参加いただいた方々、ありがとうございました。



生活寮「うみ」では、風呂場のリフォームをしました。これまで、何度か、利用者や支援者ともに、段差や空間の使い方に苦労する場面に直面することもありました。既存のリフトをうまく活用できる入浴椅子など、業者の方にも紹介してもらい、利用者の方々の状況に見合ったものを開拓。段差も解消し、本来の“リラックス時間”としての入浴を取り戻したという感じます。

生活寮の窓

放デイの窓

2月1日に少し早い豆まきを行いました。

鬼に扮した職員めがけて豆を投げたり、追いかけてくる鬼に驚いて逃げる子どもたちがいたり様々でした。

豆まき後は、豆を食べてゆっくりと過ごしていました。大きな声で豆まきをしたので今年1年無病息災で子どもたちが元気に過ごしていけたら良いなと思えます。



冬が終わると、店がある市役所のまわりは桜が咲き、そのあとは若葉が美しくなってきました。もうすぐ、オープンから一年を迎えますが、常連のお客様も増えてきました。のぞみの家で作っているケーキも評判がよく売り切れてしまう日も少なくありません。

現在、障害のある人が、ホールを担当し接客できるようスタッフが支援をしています。

Cafe どん



生活寮 (共同生活援助)

斉藤加奈子 (1年目)

「作業所の中で障害のある人たちを(その人たちの権利とかを)守ることだけに徹してはだめだと思うよ」とある有名な精神科医の先生が、そんな一言をまだまだひよっこ職員時代に話してくれたことが、今でも印象に残っています。障害のある方々の支援に特化した事業所で私たちは働いているわけですが、その中だけで完結させるこ

とが役割ではないということ。むしろ、社会に生きる「人」として、まだまだ残る障害のある人たちの「生きづらさ」の壁を一緒に突破し、切り拓いていくことが大事なんだろう…と思っています。そして、「〇〇してあげる」支援ではなく、その人が本来持っている「生きる力」を発揮できるチャンスと一緒に展開していくことも大事。…といいつつ、自分も切磋琢磨の毎日です。

職員のひよっこ日記

vol 1

新連載です。法人の職員がそれぞれの『仕事で大切にしていること』を順番に書いていきます。初回は、のぞみの家の矢島さんと生活寮の斉藤さんです。



のぞみの家 (生活介護)

矢島正樹 (15年目)

大切にしていること。一言にいえば「なぜ？」と疑問を持ち、その「なぜ？」を消して、「ならば！」とアイデアを浮かべる。
例えば、部屋の照明スイッチ、通常部屋の中入り口付近にありますよね？では、トイレや浴室はどうでしょう？大抵は外にありますか？不思議だと思いますか？トイレや浴室は段差

があり、暗い中スイッチを探し転倒などを考慮して先に明るくとの思いがあるようです。今じゃ段差もないですけど…
でも、外にあるおかげで、誤って消されたりもします。当たり前と思うものにも、理由があつてそうなっています。場所、時代でも変わる理由、何ごとにも「なぜ？」と思ってい続けたいです。当たり前の中にも新たな発見が出来ますように…

ご寄付をいただきました (3月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。
いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様 神戸弘子様 前田貴弥様 山脇百合子様

ありがとうございます。

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里 2-7-18
042-473-9027
042-473-9036 (F)
nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢 2-20-51
042-452-6405
042-452-6415 (F)
kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町 2-1-47
042-472-7130
042-444-3722 (F)
nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里 4-2-7
042-476-3400 (F兼)
sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里 5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町 3-8-23
042-473-9667

～職員のつぶやき～

先日、次男の小学校入学準備のための説明会に参加しました。冊子を確認すると家庭で準備しなければならないものがズラリ…ついつい「無償化って何が？」と嘆きたくなくなりました。

活動センターかなえ 中西亮太

《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17
ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室
Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

《編集委員会》

磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・福田恵
中西亮太・疋田史江・斉藤加奈子
ホームページからはカラーでご覧いただけます。

イリアンソス 検索  定価100円

表紙の写真

それぞれの笑顔！！一人一人の笑顔に支えられています。